

近世道状遺構の集成（9）

近世プロジェクトチーム

はじめに

本プロジェクトチームでは、2015年度より近世道状遺構の集成を行っている。

県内の遺跡で発見され、報告されている近世の道状遺構のデータを集成し、規模や構築方法等について検討していく予定である。今回は、伊勢原市上粕屋・石倉中遺跡（No.40）、栗窪・林遺跡、栗窪・林台遺跡、栗窪・四石田遺跡（No.71）、神成松遺跡第8地点I（No.74）、西富岡・向畠遺跡（No.160）、池端・坂戸遺跡（No.170）を取り上げる。

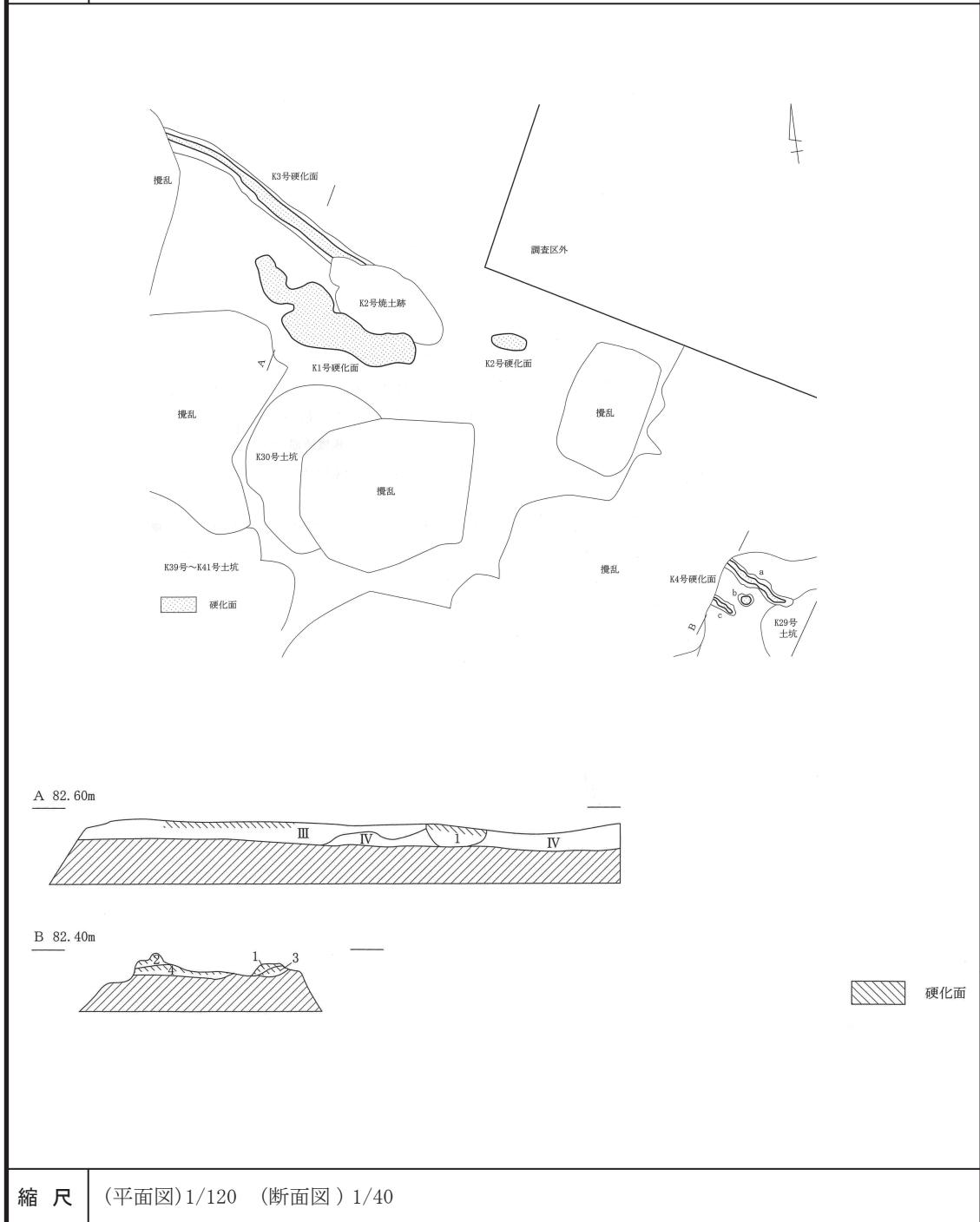
凡 例

- ・遺構名は報告書の記載に基づく。
- ・縮尺は平面図がスペースに収まるような大きさに適宜変えているため、図ごとに示した。
- ・断面図は報告書に複数記載されている例もあるが、一部を記載することにした。

資料No.	遺跡名	遺構名	文献名
151	上粕屋・石倉中遺跡	K 2号道状遺構	2013年 『上粕屋・石倉中遺跡（No.40）』 かながわ考古学財団調査報告294
152	上粕屋・石倉中遺跡	K 1～2号硬化面	2013年 『上粕屋・石倉中遺跡（No.40）』 かながわ考古学財団調査報告294
153	栗窪・林遺跡	6区K 1～3号硬化面	2023年 『栗窪・林遺跡、栗窪・林台遺跡、栗窪・四石田遺跡（No.71）』 かながわ考古学財団調査報告334
154	栗窪・林遺跡	6区K 4～5号硬化面	2023年 『栗窪・林遺跡、栗窪・林台遺跡、栗窪・四石田遺跡（No.71）』 かながわ考古学財団調査報告334
155	栗窪・林遺跡	6区K 6～7号硬化面	2023年 『栗窪・林遺跡、栗窪・林台遺跡、栗窪・四石田遺跡（No.71）』 かながわ考古学財団調査報告334
156	栗窪・林台遺跡	3区K 1号硬化面	2023年 『栗窪・林遺跡、栗窪・林台遺跡、栗窪・四石田遺跡（No.71）』 かながわ考古学財団調査報告334
157	栗窪・林台遺跡	3区K 2号硬化面	2023年 『栗窪・林遺跡、栗窪・林台遺跡、栗窪・四石田遺跡（No.71）』 かながわ考古学財団調査報告334
158	栗窪・林台遺跡	12区K 1号道状遺構	2023年 『栗窪・林遺跡、栗窪・林台遺跡、栗窪・四石田遺跡（No.71）』 かながわ考古学財団調査報告334
159	神成松遺跡第8地点I (No.74)	CK 1・2号段切り CK 1号道状遺構 CK 5号構状遺構	2022年 『神成松遺跡第8地点I（No.74）』 かながわ考古学財団調査報告331
160	神成松遺跡第8地点I (No.74)	K 1号構状遺構 K 1号道状遺構	2022年 『神成松遺跡第8地点I（No.74）』 かながわ考古学財団調査報告331
161	神成松遺跡第8地点I (No.74)	K 3～6号構状遺構 K 2号道状遺構	2022年 『神成松遺跡第8地点I（No.74）』 かながわ考古学財団調査報告331
162	西富岡・向畠遺跡（No.160）	CK 1号道状遺構	2014年 『西富岡・向畠遺跡（No.160）』 かながわ考古学財団調査報告298

資料No.	151	遺跡名	上粕屋・石倉中遺跡(No.40)
所在地	伊勢原市上粕屋		
遺構名	K 2号道状遺構		
道幅	60~740m		
年代	18世紀代前半期		
備考	検出長4500m。北端部は調査区外へ展開しているため、全体は不明である。 硬化面では遺物が出土していないことから具体的な帰属時期は明瞭ではなく、確認面などの特徴から近世以降の所産として扱った。		
縮尺	(平面図)1/360 (断面図) 1/120		

資料No.	152	遺跡名	上粕屋・石倉中遺跡(No.40)
所在地	伊勢原市上粕屋		
遺構名	K 1～4号硬化面		
道幅	(K 1号)0.1m、(K 2号)0.2m、(K 3号)0.3m、(K 4号)0.2m		
年代	宝永以前		
備考	(K 1号)検出長3.4m。(K 2号)検出長0.6m。(K 3号)検出長4.0m。(K 4号)検出長1.4m。全体的にはほぼ平坦で、いずれも顕著な傾斜や勾配はみられない。		

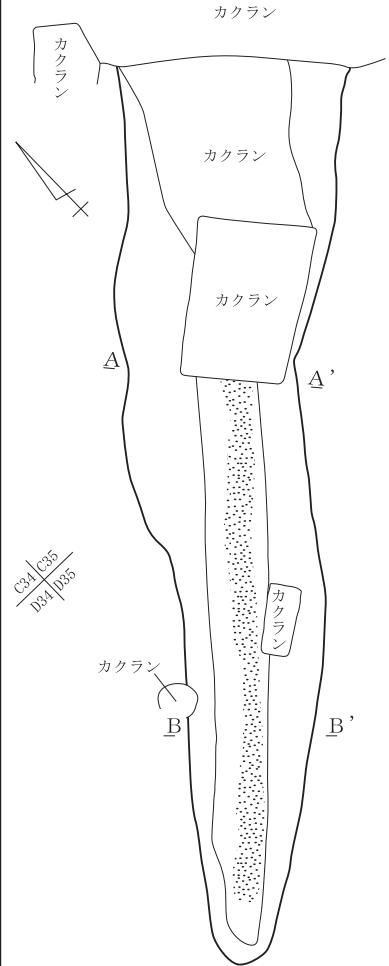
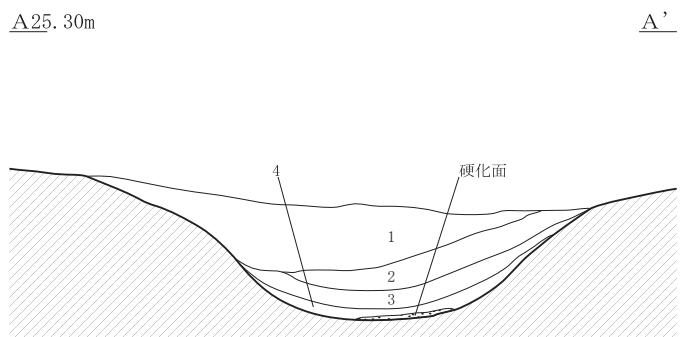
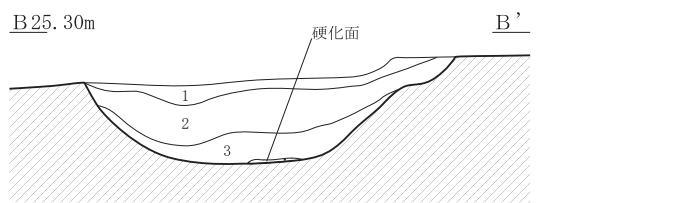


資料No.	153	遺跡名	粟窪・林遺跡(No.71)
所在地	伊勢原市粟窪地先		
遺構名	6区K1～3号硬化面		
道幅	(K1号) 0.4m、(K2号) 1.1m、(K3号) 1.0m		
年代	宝永以前		
備考	(K1号) 検出長2.1m。中央と南側の硬化面は東側で一旦途切れている。 (K2号) 検出長6.2m。 (K3号) 検出長17.8m。下層にC2号道状遺構が所在。 C2号道状遺構とは北端の向きが異なる。		
縮尺	(平面図) 1/80・1/120 (断面図) 1/40		

資料No.	154	遺跡名	粟窪・林遺跡（No. 71）
所在地	伊勢原市粟窪地先		
遺構名	6区K4・5号硬化面		
道幅	(K4号)0.5m、(K5号)0.4m		
年代	宝永以前		
備考	(K4号)検出長最大7.2m。厚さ0.1~0.2m。北西端から南東に向かって延び、北から南に向けて傾斜している。 (K5号)検出長10.2m。厚さ0.1m。東西に向き、北側にK5号段切り、南側にK2号溝状遺構が所在する。		
<p>K4号硬化面</p>			
<p>K5号硬化面</p>			
縮尺	(平面図)1/80 (断面図)1/40		

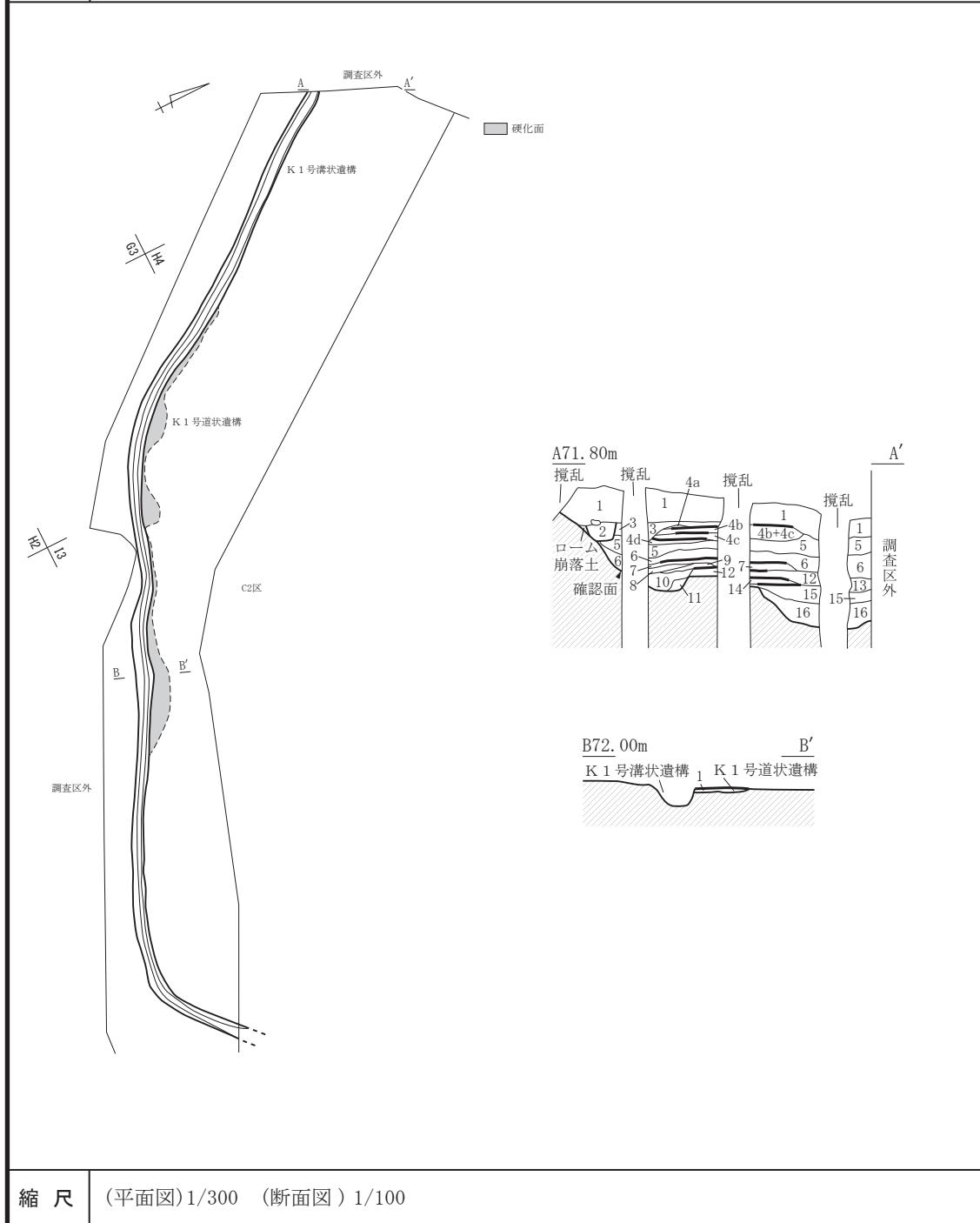
資料No.	155	遺跡名	粟窪・林遺跡(No. 71)	資料No.	156	遺跡名	粟窪・林台遺跡(No. 71)
所在地	伊勢原市粟窪地先	所在地	伊勢原市粟窪地先				
遺構名	6区K6・7号硬化面	遺構名	3区K1号硬化面				
道幅	0.2m	道幅	0.4m				
年代	宝永以前	年代	近世				
備考	(K6号) 検出長2.8m。(K7号) 検出長1.8m。硬化面の下は僅かに窪んでいるが、明確な掘込みは認められない。断面形は皿状である。	備考	検出長11.8m。検出状況から耕作等に 関する何らかの跡であると考えられるが 詳細については不明である。				
縮尺	(平面図) 1/80 (断面図) 1/40			縮尺	(平面図) 1/120 (断面図) 1/60		

資料No.	157	遺跡名	粟窪・林台遺跡(No.71)
所在地	伊勢原市粟窪地先		
遺構名	3区K 2号硬化面		
道幅	0.2m		
年代	宝永以前		
備考	検出長22.0m。硬化面の土色調に違いが見られるのは、南東側の地形は南西から北東へ傾斜し、調査区端付近の一部で北東が高くなる複雑な地形であり、更に地山面の削平等が影響しているからと推定される。遺物は出土していない。		
縮尺	(平面図)1/120 (断面図)1/40		

資料No.	158	遺跡名	栗窪・林台遺跡(No.71)
所在地	伊勢原市栗窪地先		
遺構名	12区K 1号道状遺構		
道幅	0.3~0.5m		
年代	宝永以前		
備考	検出長8.5m。本遺構の北側では奈良・平安時代の道状遺構が発見され、南側には現在使用されている道路があることから、台地へ通じる道が少しずつ場所を変えながら設けられていたものと思われる。		
  			
縮尺	(平面図)1/120 (断面図)1/40		

資料No.	159	遺跡名	神成松遺跡第8地点 I (No. 74)
所在地	伊勢原市上粕屋		
遺構名	CK 1・2号段切り・CK 1号道状遺構・CK 5号溝状遺構		
道幅	(CK 1号段切り)2.3m、(CK 2号段切り)7.4m、(CK 1号道状遺構)1.3m、(CK 5号溝状遺構)0.7m~1.8m		
年代	宝永以前		
備考	(CK 1号段切り) 檜出長60m。相模原段丘と中津原段丘の段差を利用して構築された段切り。 (CK 2号段切り) 檜出長24m。構築時の地形は近世以降、形状は改変された可能性が高い。 (CK 1号道状遺構) 檜出長41m。北西側寄りは近世以降の開墾等により削平され、消失した可能性が高い。 (CK 5号溝状遺構) 檜出長42m。宝永火山灰を含まず、宝永火山噴火以前の時期のものと考えられる。		
縮尺	(平面図)1/480 (断面図) 1/120		

資料No.	160	遺跡名	神成松遺跡第8地点 I (No. 74)
所在地	伊勢原市上粕屋		
遺構名	K 1号溝状遺構・K 1号道状遺構		
道 幅	(K 1号溝状遺構) 0.9m、(K 1号道状遺構) 0.8m		
年 代	江戸時代末期		
備 考	(K 1号溝状遺構) 検出長47.3m。江戸時代末期の遺構と推定される。 (K 1号道状遺構) 検出長21.2m。宝永降灰後～江戸時代末期の遺構と推定。		



資料No.	161	遺跡名	神成松遺跡第8地点 I (No. 74)
所在地	伊勢原市上粕屋		
遺構名	K 3号溝状遺構・K 2号道状遺構		
道幅	(K 3号溝状遺構) 1.5m、(K 2号道状遺構) 2.0m		
年代	江戸時代末期		
備考	(K 3号溝状遺構) 検出長43.4m。遺構の先後関係から、江戸時代末期の遺構と推定される。 (K 2号道状遺構) 検出長34.3m。東側端部は近世以降の削平をうけた可能性が高い。		
縮尺	(平面図) 1/300 (断面図) 1/100		

